



SENSHOJI
YUKARI NEWSLETTER
1994-2023

ゆかり通信
VOL. 303
令和 5 年 4 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺
TEL: 0123-23-2442 FAX: 0123-24-9883
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2023年千正寺カレンダー 4月の言葉



韓文人の居住跡ウサクマ

気が進まなくても時間は進む。
とりあえずやってみたら、
あなた自身が一歩進む。

この言葉は、可愛い動物たちの絵と、心暖まる言葉と、ポッコリしたお腹で、大人気のお笑いタレント「ヤポンスキーこばやし画伯」の言葉です。

「しあわせだなんて思う時、大事な人がそばにいる。」
「転んだ人を笑うんじゃない。その人は前に進もうとしているんだから。」などなど、何とも心暖まる作品がいっぱいあります。



こばやし画伯は、マンガ家の先生からこんなアドバイスを頂いたといいます。「決してうまくはないけれど、嫌味のない絵を描けるのは才能だから、毎日描いて行きなさい」でも、毎日描くとなると大変な事です。アイデアなんてすぐ出尽くしちゃって、何も書きたくない日だってある。正直「もう辞めおう！」って思う日も何度もあったことでしょう。でもそんな時、ふっとまた言葉が浮かびます。

「思い切って始める勇気も大事だけど、肝心なのは、腹をくくって続ける覚悟」

現代は、「頭が良くなきゃいけない」「100点取らなきゃいけない」って、みんな競争させられる時代。「失敗しては落ち込んで」「出来ない自分を責めて」多くの若者は、自信を失っています。「カッコよく描こう」「褒められたい」「人より上手く描こう」なんて考えるから、手が止まる。カッコ付けずに、一瞬一瞬の気持ちを絵と文字にすることにしました。

その時生まれた言葉が、

「気が進まなくても時間は進む。とりあえずやってみたら、あなた自身が一歩進む。」・・・
じゃないかと、勝手に僕は想像しています(汗)。

千正寺のご門徒さんにも一人「川柳作家」がいます。板金店のご主人、佐藤勲さんです。ご主人は1996年から今日までの27年間、毎日欠かさず、一句の川柳を詠い続けていらっしゃいます。

「またボツか またボツか と百句詠み」「人生も リセットしたい たまごっち」
毎日、北海道新聞の読者投稿欄「道新川柳」に投稿されて、平成八年秀作賞に選ばれた句が、「安楽死 他人事でない 高瀬舟」でした。

創作10年目に当たる年、奥様のご往生なさいました。その時の和歌がこちらです。

「苦しみが なかった様に 微笑んで 遺影の眼 吾を追いかけ」
「別れから 七日七日の 中陰忌 少しづつでも 前を見つめて」
「寂しけりや 南無阿弥陀仏と 唱えては 浄土の妻の 声を聞き寄せ」

ご主人の日々の喜怒哀楽が、今日も一句の川柳に成ります。

(文：桜庭尚吾法務員)